

自ら学び、表現する姿を目指して



今年度も、本校の校内研究がスタートしました。昨年度に引き続き、京都府小学校教育研究会の協力校として、図画工作科の学びを軸に、研究を進めていきます。

これまでから、子どもたちが安心して関わり合いながら学ぶ「つながり」と、「自ら学びに向かう力」を大切にしてきました。今年度はそれを土台として、図画工作科の学びを中心にしながらも、他教科や学校行事等ともつなげていくことで、より豊かな学びへと広げていきたいと考えています。

研究の2年目として、大切にしたいこと。それは、「新たな価値を生み出す力」と「自分の思いを表現する力」の育成です。子どもたちは、感じたことや考えたことをもとに試行錯誤を重ねながら、自分なりの表現を見つけていきます。そして、友達との関わりの中で新しい見方や考え方に出会い、自分一人では気付かなかった価値に気付いていきます。そうした積み重ねが、「新たな価値を生み出す力」へとつながっていくと考えています。

それぞれの思いが重なり、広がり、新しい彩りへとつながっていく——そんな願いを今年度もこの「Canvas」に込めて。今後も子どもたちの学びの過程と歩みをお伝えしていきます。

図工タイム



あたたかい異年齢のつながりづくり、また、その季節ならではの活動を通して豊かな情操を育んだり、色々な技法を学んだりする機会として、これからも大切にしていきたい時間です。

先日の図工タイムは、葉っぱや段ボールなどの素材を「こすり出し」て生まれる模様を楽しみながら、新緑をイメージした作品づくり「かきかきストリート」に、さわやかな緑の風がそよぎはじめました。



安心できるつながりの中で、自らの学びを楽しみ、新たな価値を生み出す児童の育成～造形的な見方・考え方を働かせながら、自分の思いを表現できる学びの工夫～

6年生 図画工作科

「紙が奏でる形と色のハーモニー」

さて、今回は6年生で行った「紙が奏でる形と色のハーモニー」の学習の様子から。色画用紙をカッターで切り抜いたり、複数の色を重ね合わせたりして、生み出される「色」や「形」の組み合わせを楽しみながら、自分のイメージを表していく題材です。「こっちの色の方が合うかな?」「これ、重ねてみたらどうなる?」教室のあちこちで、そんなつぶやきや対話が自然と生まれていました。子どもたちは、実際に紙を重ねたり、形を変えたりしながら、「自分のイメージに近づけたい」という思いで手を動かしながら進めています。

一度やってみて、「やっぱり違うな」と感じたときには、別の色を選び直したり、配置を変えたりする姿も見られました。試して、気付き、また試す——その繰り返しのなかで、少しずつ自分なりの表現を見つけていきます。

また、「どう思う?」と友達に声をかける姿も印象的でした。友達から「こっちの方がいいんじゃない?」と意見をもらうことで、新しい見方に出会い、発想が広がっていきます。安心して相談できる関係があるからこそ、子どもたちは一歩踏み出し、新しいことに挑戦しようとしています。



「どうしたいか」「どう表したいか」を自分で考え、選び、友達との関わりの中で考えを広げる中で学びを深め、色の組み合わせや形の工夫を通して、自分なりの新しい表し方を生み出していく様子は、研究主題につながる姿でした。

正解が一つではない、子どもたち一人一人の大切な学び。今後も、感じることを、伝えることを大切にしながら、子どもたちの思いや学びの過程に丁寧に寄り添ってまいります。